分科会	小４	郡市名	岡崎
提案者	岡崎市立羽根小学校		成瀬　正和

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業
―４年「変わってきたわたしたちの羽根学区～よりよい地域をめざして努力した人々～」の実践を通して―

１　はじめに

岡崎市社会科部では、昨年度まで４年間「持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業」を主題として研究を行ってきた。昨年度の研究（６年「水害に強い安心できる町づくり」）では、次のような成果が得られた。

・調べをもとにして考えた自分たちの願いを伝える活動を通して、未来像をより明確に予測することができた。
・聞き取り調査や友達との意見交換から、自分の考えを見つめ直し、多面的・総合的に考える力を身につけていくことができた。
・将来にわたって地域社会のために進んで行動しようとしたり、地域社会と自分たちのつながりについて考えたりすることで、子どもたちは自分たちの町のために努力している人々や協力している人々に共感し、水害対策を自分の問題としてとらえることができた。

昨年度までの成果を踏まえ、本年度は、「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題解決を図る社会科の授業」を主題とし、研究を進めることにした。特に、昨年度の研究で重視した、地域の人々や友達とのかかわりを「仲間とのかかわり」ととらえ、子どもたちがさまざまな仲間とかかわりながら、社会の問題点を認識し、持続可能な社会の実現に迫ることができるようにしたいと考えた。

２　研究の基本的な考え方

（１）研究主題のとらえ

本研究では、研究主題「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」を次のようにとらえた。

社会に参画していこうとする子ども

本研究では、「自ら積極的に社会事象をとらえ、問題点を考え、地域の人々や友達と思いを共有したり、対立を処理解決したりしながら、よりよい未来を考えることができる子ども」ととらえる。本研究では、約３０年前の岡崎羽根土地区画整理事業による学区の様相の変化と事業に携わった人々の思いや、現在も続く駅東地区区画整理事業による学区の様相の変化と事業に携わる人々の思いをとらえさせたい。そして、区画整理事業に賛成した人、反対した人の立場について考え、話し合わせることで、異なる意見を持つ他者を受け入れながら問題解決を図っていくことを学ばせ、未来の羽根学区についての展望へとつなげたい。

仲間とかかわりながら

「仲間」とは、共に学び合う学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわる人たちすべてを含めたものととらえる。即ち、「仲間とかかわる」とは、「学習の対象となる人の話を聞いたり、友達と話し合ったりして、学びを深めること」と考える。本研究では、子どもたちの家族や身近な地域の人々、岡崎羽根土地区画整理事業の組合の方、駅東地区区画整理事業について詳しい地域の方から話を聞いたり、質問をしたりして、昔の学区の様子や人々の思いについて深く知り、それらについて友達と話し合うことで学びを深めたい。

問題の解決を図る

「問題の解決を図る」とは、「子どもが身近な社会事象にふれたときに生まれる疑問を、意見交換や話し合いにより整理していきながら、はっきりさせていくこと」ととらえる。本研究では、「区画整理事業によって、羽根地区はどのように変わってきたのか」ということを中心の問題として考える。資料の読み取り、家族や身近な地域の人々への聞き取り、岡崎羽根土地区画整理事業組合の方や、駅東地区区画整理事業について詳しい地域の方からの聞き取りを通して、その思いに迫りたい。

（２）研究単元の設定理由

羽根学区は西部にＪＲ岡崎駅を有し、国道２４８号に沿って南北に広がる学区である。国道２４８号や県道岡崎刈谷線に沿って、商業施設が多く建ち並び、それらの道路から一本中に入ると、住宅地が多く見られる。生活の中のたいていのことは学区内で事足りる。大きな道路が通っているので、自動車で出かけるのにも便利である。子どもたちは、この学区がとても便利で住みやすいという意識を強く持っている。しかし、子どもたちは、いつからこのような学区になったのかを知らない。

羽根学区の様相を大きく変えたものは、約３０年前の国道２４８号、県道岡崎刈谷線の開通と、それに伴う岡

崎羽根土地区画整理事業である。それまでの羽根学区の町と呼ばれる場所は主に岡崎駅周辺のみで、その他の多くの地域は水田地帯であった。この区画整理事業に協力することを決断した地域住民たちの、未来の地域の発展を願う強い思いや、区画整理を推進する人々の努力や苦労に気付かせ、地域に対する愛着を持たせたい。さらに、過去の事業とつながりを持ちながら現在もなお続いている駅東地区区画整理事業について知らせることで、自分も地域社会を作っていく担い手の一人という意識を持たせたいと考えた。

（３）めざす子ども像

・岡崎羽根土地区画整理事業に関心を持ち、その事業によって学区がどのように変化したのかを意欲的に追究する子ども
・資料を読み取ったり調べて分かったりしたことを根拠に、自分の考えを持つとともに、他者の考えも受け入れながら、問題の解決を図っていくことができる子ども
・「仲間」とのかかわりを通して、地域に対する愛着を持ち、地域の一員としての意識を高めることができる子ども

（４）研究の仮説

仮説１　資料を読み取る時間や調べる時間を十分に保障し、根拠をはっきりさせた考えを交換する場を設定すれば、子どもたちは意欲的に問題解決を図っていくだろう。
仮説２　地域をよりよくしようとしてきた人々の思いや努力に迫ることで、子どもたちは地域に対する愛着を持ち、地域の一員としての意識を高めるだろう。

（５）研究の手立て

仮説１に対する手立て

①精選した資料の提示

区画整理前から区画整理後へと年代順に追った地図、区画整理が行われた地域全体を撮影した写真資料など、精選した資料を提示していくことで、考えさせたいことに視点を絞って考えられるようにする。

②見学や、家族・地域の人々への聞き取りの単元への位置付け

区画整理記念碑や区画整理を行った地域の見学、家族・地域の人々への昔の学区の様子の聞き取りを単元の中に位置づけ、一人調べをする時間を十分に保障することで、根拠をはっきりさせた考えを持たせるようにする。

③話し合いの場の設定

区画整理事業を推進した人、反対した人の立場について考え、話し合う場を設けることで、他者の考えも受け入れながら、問題の解決を図っていくことの大切さを知らせるとともに、よりよくしようとしてきた人々の思いや努力に気付かせる。

仮説２に対する手立て

④地域の人と接する機会の設定

岡崎羽根土地区画整理事業の中心となった方、学区の歴史に詳しい方などと接し、地域をよりよくしようとしてきた人々の努力や思いを直接的に感じられるようにすることで、子どもたちに地域に対する愛着を持たせる。

⑤未来について考える場の単元への位置付け

過去に地域をよりよくしようとしてきた人々、現在も地域をよりよくしようとしている人々の思いや努力を踏まえ、未来について考える場を設定することで、根拠のある、願いを持った未来の姿を考えさせ、地域の一員としての意識を高めさせる。

（６）単元構想

児童の活動	教師の活動
「岡崎羽根土地区画整理事業完成記念碑」、これって何だろうか（第１時） ○調べたいという意欲を高めるために、区画整理事業記念碑を実際に見学する。 ・「岡崎羽根土地区画整理事業」って何だろう。	・子どもたちの興味を高めるために、導入をクイズ形式とし、あすなろ公園にある記念碑に関心を持たせる。 ・「岡崎羽根土地区画整理事業」という記述に気付かせるために、記念碑の写真を拡大提示する。 ・子どもたちの調べたいという意欲を高めるために、実際に区画整理事業記念碑の場所に行き、自由に見学させる。
区画整理事業記念碑は、なぜ今ここにあるのだろうか（第２・３・４時） ○碑文から、区画整理事業というものが羽根地区に変化をもたらしたことを読み取る。 ・昔は田ばかりだったんだ。 ・自分勝手な開発が進み、区画整理をしたんだ。 ・区画整理で、すばらしい町ができたみたいだ。 ・すごく長い時間がかかったみたいだ。 ○調べたいことを挙げ、自分の予想を立てる。 ・区画整理事業ってどんなことをしたんだろう。 ・組合を作るのになぜ５年間も話し合うのかな。	・語句の意味の読み取りに終始しないように、簡単な文章に変えた碑文を与える。 ・子どもたちが想像しやすいように、現在の羽根学区の地図を示し、国道２４８号や県道岡崎刈谷線の位置を確認する。 ・事実を正しく知るために、ワークシートを活用してキーワードとなる言葉を押さえる。

区画整理事業によって、羽根地区はどのように変わってきたのか（第５・６・７時）	・学区の変化が視覚的に分かるように、航空写真や地図を提示し、読み取らせる。 ・昔と今の違いをより具体的に想像させるために、家族や身近な人から聞き取った話を発表させる。 ・区画整理事業を境に、羽根地区がどのように変わったかを子どもたちに理解できるように、時間軸に沿った板書をしていく。 ・時代区分された複数の写真や地図からの学区の移り変わりが理解できるように、一つ一つの資料をワークシートを活用して、丁寧に読み取らせる。 ・子どもたちの知りたいことに対する応答が的確にされるように、事前に子どもたちの質問内容を把握し、意図的に指名していく。 ・区画整理事業とは何だったのかを共通理解させるために、分かったことをまとめ、発表させる。
○航空写真や地図の読み取りや、身近な人への聞き取りから、区画整理前後の変化を共通理解する。 ・今は道路が縦横にきれいに通っているね。 ・道路が整ったことが区画整理ってことなのかな。 ○年代順に並んだ航空写真や地図から、学区の変遷の様子を読み取る。 ・田の中に建物が建ち始めている。これが「開発」かな。 ・区画整理直後は田もたくさんあったんだ。 ○区画整理組合の方に質問し、分かったことをまとめる。 ・きれいに道を整えることで家が増えたんだね。 ・道路も車が通りやすくなって便利になったね。	
区画整理組合の人たちが「後の世に伝えたかったこと」は何だろうか（第８・９時）	・根拠のある話し合いにするために、区画整理に反対した人の意見や、それを説得した組合の人の思いをインタビュー映像で示す。 ・組合と反対派どちらが正しいかという議論ではなく、それぞれの立場の思いを深くまで考えさせる。区画整理には地域の人々の願いとそのための努力や苦労があったという点に導く。 ・よりよい地域生活を築く過程には、地域の人々の願いとそのための努力や苦労があるという点に気付いた子の意見を称賛する。
○区画整理を行おうとした人、それに反対した人のそれぞれの立場について話し合う。 ・反対する人の立場もよく分かるね。 ・未来のことを考えて区画整理を行ったんだね。 ○区画整理組合の人たちが「後の世に伝えたかったこと」を考える。 ・羽根地区の未来のことをすごく考えて、区画整理をしたってことが伝えたいと思う。 ・今の人も未来のことを考えて、みんなで協力していってくださいと伝えたいのだと思う。	
未来の羽根学区をどうしていったらいいだろうか（第１０・１１時）	・区画整理事業はいろいろな時期、いろいろな場所で行われていることを知らせるために、児童の身近な人からの聞き取りを参考にしたり、写真資料を提示したりする。 ・現在の学区の地図を掲示し、こうなっていってほしい点を書きこんでいくことで、自分たちの暮らしで改善できる点が多くあることに気付かせる。 ・今まで学習したことを踏まえた根拠のある意見を述べることができた子を称賛する。 ・対立する意見があっても、両方の考え方を認めていくようにする。
○羽根学区には、過去に他の区画整理事業があったこと、進行中の区画整理事業があることを知る。 ・柱区画整理事業は、林や荒地を切り開いたんだ。 ・岡崎駅東地区はまだ区画整理が続いているんだ。 ○これからの羽根学区をどうしていきたいかを考え、話し合う。 ・交通事故が多いから、道をもっと広くしたい。 ・今、自然が残っている場所を大切にしていきたい。 ・地域の人が集まる場所やイベントがあるといい。	

３　研究の実際

（１）抽出児童について

本研究の仮説を検証するうえで、抽出児を２名選び、その変容を追いながら迫っていくことにしたい。

Ａ児は岡崎駅の近くに住んでいる。発言が多く、自分の考えも素直に発表できる。第１時から４時の学習を経て、「区画整理でできた緑地がなぜなくなってしまったのか」と発言し、「今はうめ立てられ、スーパーマーケット、住宅地などになってしまった。田畑をやるよりも、商店や会社に勤めた方がもうかるからだと思う」と予想した。自分の考えを意欲的に発表し、友達に影響を与えるであろうことを期待した。

Ｂ児の家族は昔から羽根学区に住んでいる。発言はあまり多くないが、調べ学習が得意である。Ｂ児は第１時から４時の学習を経て「戦後の羽根と今の羽根を比べてみたい」と発言し、「ぼくは、自分勝手な開発と、今のきちんとした開発では全く違うので、すごく変化したと思います」と予想した。自分の家族も含めた「仲間」とのかかわりを通して、自分の予想を確かめようとする姿に期待した。

（２）「岡崎羽根土地区画整理事業完成記念碑」、これって何だろうか（第１時）

第１時、学校の隣にあるあすなろ公園の写真を見せて、「ここはどこでしょう」クイズをした。記念碑の写真が

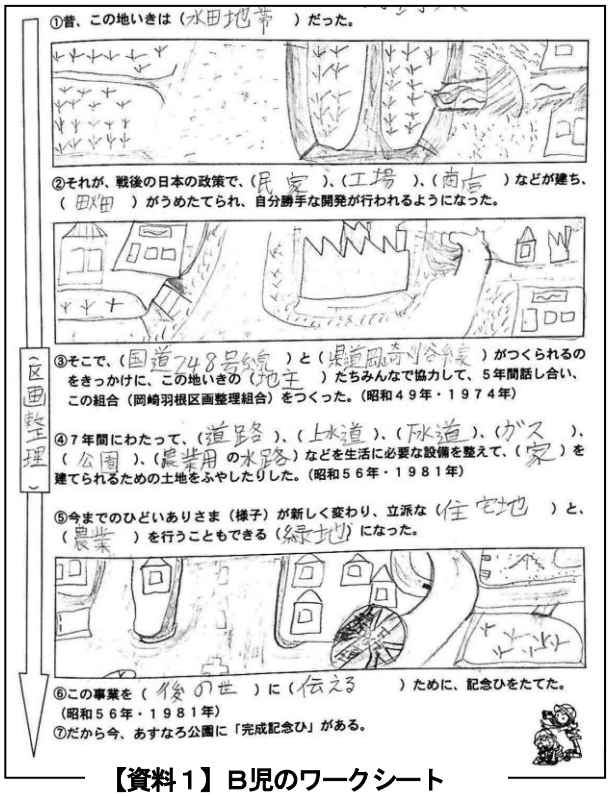
見えると、子どもたちはみんな、「あすなろ公園」と答えた。そこで、記念碑の写真を示し、「これって何だろう」と尋ねた。すると、子どもたちからは、「公園の完成記念」「何かの完成記念」「土地区画整理事業の完成記念」などの声が挙がった。「裏に何か書いてあるよ」という声も挙がったので、実際に行って見てみることにした。

記念碑に上ると、裏に書いてある文字を子どもたちは興味深げに眺めていた。「どんなことが書いてあるかわかる？」と尋ねると、全体には全く意味が分からないようであった。碑文の最後に「昭和５６年建之」の文字が書かれているので、その意味を教え、昭和５６年は今から何年前のことなのかを調べてくるように言い、第１時を終了した。

（３）区画整理事業記念碑は、なぜ今ここにあるのだろうか（第２・３・４時）

第２時から４時では、まず、碑が３０年前に建てられたことを確認し、「記念碑は、なぜ今ここに建てられているのだろうか」という学習課題を立て、碑文の読み取りを行った。原文は子どもたちには難しいため、簡単な言葉に訳すとともに、ワークシートを使い、順を追って読み取っていった。重要な言葉を（　　）抜きにし、イメージをふくらませるために、想像で絵を描かせた。【資料１】は、Ｂ児のワークシートである。第４時までを終えて、子どもたちは「碑がなぜ今ここにあるのか＝碑ができるまでに学区で何があったのか」、すなわち①昔は田園地帯だったこと②戦後に自分勝手な開発が進んだこと③住民によって「区画整理事業」というものが行われたこと④それによって住宅地と田畑のある立派な地域ができたこと、を大まかにつかむことができた。

全体としては、「区画整理事業」というものが行われ、その前後で学区の様子が大きく変わったことは分かったが、具体的な事実はよく分からないというのが共通認識であった。



【資料１】Ｂ児のワークシート

（４）区画整理事業によって、羽根地区はどのように変わってきたのか（第５・６・７時）

第５時では、区画整理事業の前と後で何が変わったのか、より具体的な事実を知るために、子どもたちは家庭や地域の人からの聞き取りを行い、いろいろな年代の地域の情報を集め、発表することになった。

まず区画整理事業以前と、以後の航空写真を示して、昔と今とどこが変わったのかを考えさせた。子どもたちからは、昔は「田や畑ばかり」や「羽根小の北に道がない」など、今は、「たくさんの家や店」、「住宅街がある」、「大きな道路がある（２４８号・県道岡刈線）」などの意見が挙げられた。

次に、子どもたちが調べてきた羽根学区の様子について発表をさせた。Ａ児は「ここ数年で岡崎駅の周りが新しく、きれいになった」ことを発表した。Ｂ児は、「区画整理以前に駅周辺にボウリング場や映画館があった」「路面電車が通っていた」ことなど、調べてきたことをたくさん発表した。【資料２】は第５時の授業記録である。区画整理の前か後か、また何年ぐらい前の話かを発表させ、時代順・地域ごとに分類して板書していくことで、羽根学区全体の移り変わりが明らかになった。また、Ｂ児の発言によって、他の子どもたちは、区画整理前の駅周辺の様子を詳しく知ることができたといえる。

【資料２】第５時の授業記録

〔区画整理前の羽根地区が田であったということについて〕
C15：この辺りは全部田で、ザリガニを捕って遊んでいた。
T：　えー。そうなの。今ザリガニなんて捕れる？
C全：とれない。
C16：今の２４８号があるところも田んぼだった。
C17：羽根小学校の周りは田ばっかりで、何もないから羽根小学校から南中学校が見えた。
C全：えー、うそ（どよめき）。
〔区画整理後に引っ越してきた子の話〕
C26：ぼくの家が今あるところはもともと田んぼだった。
C27：羽根公園のある場所も昔は田だった。
T：　へえ、そうなんだ。
C28：やっぱり（区画整理後も）田んぼはあったんだ。
〔区画整理前の岡崎駅周辺がにぎやかだったこと〕
T：　昔の岡崎駅周辺は、映画館やボウリング場もあったんだね。
　　森永の工場もあったみたいだね。
C44：何か今より昔の方がさかえているみたいじゃん。

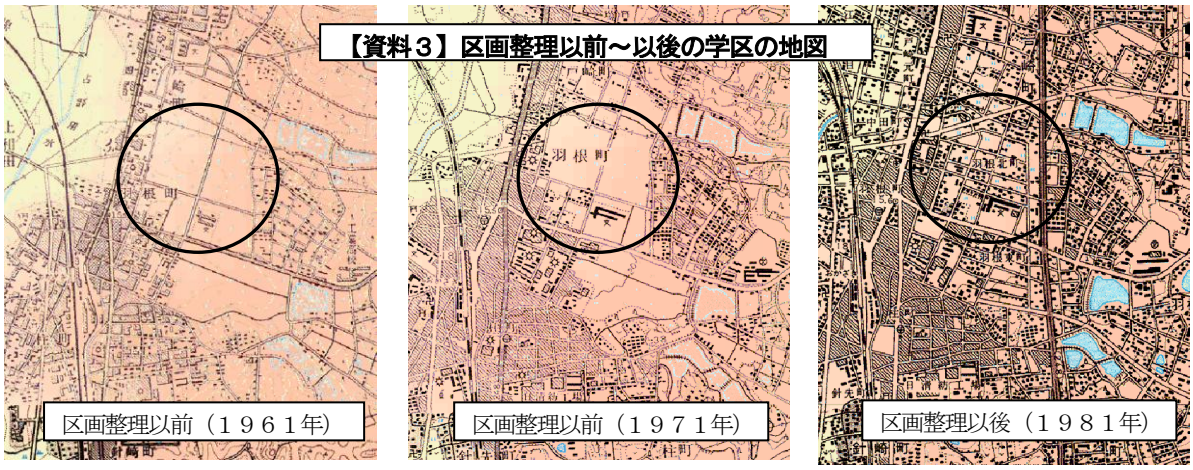
この授業から、子どもたちは区画整理以前は羽根地区が田や畑ばかりで、舗装された道がないこと、区画整理後は大きな道路ができ、しだいに住宅街になったことをつかんだ。また、岡崎駅付近は区画整理以前、いろいろな施設があったが、区画整理後それらはなくなり、現在また駅付近は整備されてきているということにも気付い

た。子どもたちには、碑文で読み取ったことが少し具体的に認識できたと言える。

第５時を終えての感想に、A児は「駅の周りがごちゃごちゃしていたという話から、昔の岡崎駅周辺はどんな感じだったかが分かった」と、B児は「店や家や駅の位置が（区画整理によって）すごく変わって、昔よりいい町になったなと思いました」と記述した。

第６時では、前時に挙げられた情報を、実際に地図や航空写真、写真を読み取った。区画整理以前（１９６１年）の地図と、区画整理以後(１９８１年)の地図に加え、その中間期（１９７１年）の地図を提示した（下の【資料３】)。６１年の地図と８１年の地図を比較すると、もとは田ばかりの地域で、そこに道路が整備され、住宅地(と緑地)ができた地域は、○の地域であることが分かることから、区画整理というものが行われた地域がここであると予測できた。また、それぞれの時期の写真を比較することで、区画整理以前と以後の様子や変化の様子を具体的に知ることができた。

【資料３】区画整理以前～以後の学区の地図



この時間の後、それでもまだよく分からないということを、実際に区画整理組合の中心となっていた人に聞いてみようということを伝え、質問したいことを考えさせた。

第７時では、区画整理組合の天野さんをゲストティーチャーとして学校に迎えて、その話を聞いたり、質問をしたりした。質問に対する天野さんの回答は以下のようであった。

- **区画整理とは何をすることか。**
  →道路を通して土地を分けて住みやすいようにすること。幅６ｍの道路を通し、どこでも車で出入りできるようにした。学校へ通う子のことを考え、通学路に歩道をつけた。
- **区画整理を行った地域はどこか。**　→羽根小の東側２４８号へかけての地域と、岡崎刈谷線へかけての北側の地域
- **なぜ生活に必要なもの（上水道・下水道・ガス・農業用の水路など）を作ったか。**
  →家を建てたり、田畑を行ったりできるように。
- **国道２４８号や県道岡崎刈谷線が通ることと、区画整理はどういう関係があるか。**
  →県道岡刈線は区画整理とは直接関係がなく、国道２４８号が通ることを機に、岡崎市から区画整理の話が挙がった。
- **なぜ公園を作ったか。**
  →区画整理法に基づいてではあるが、区画整理を行うと、将来この地に子どもが増えるだろうから、子どもたちの遊ぶ場所を確保するため。
- **あすなろ公園はいつ作られたか。**
  →いつ完成したかは正式には分からず。しかし、「あすなろ」という名前は「あす」にはひのきに「なろ」うと言う、未来への希望を託して名付けた。
- **あすなろ公園はどんな場所だったか。**→もともとは池があった。
- **記念碑はほかの場所にもあるか。**→羽根の区画整理記念碑はここだけ。他の記念碑は他の場所にある。
- **なぜ組合を作ったのか。**
  →道路がなく、家を建てるための土地もないから。地域の人に納得してもらわないと区画整理ができないから。
- **組合の人ってどんな人？**　→区画整理を行った地域の人全員が組合員。天野さんたちはその中心的役割。
- **なぜ組合を作るまでに５年かかったのか。**→反対をする人を説得するために、５年の歳月がかかった。
- **「組合員のご協力に感謝」と書いてあるが、組合員は何を協力したのか。**　→区画整理組合に入るということが協力。
- **なぜ商店や工場を作ることが自分勝手なのか。**→道路がない（狭い）土地（田畑）に勝手に家などを建てられては困る。
- **区画整理が終わった後にも農地がたくさんあったが、なぜ今はなくなったのか。**
  →家がたくさん建って、田畑の土地がせまくなると、もうからないからみんなやめてしまう。跡継ぎがいない。働きに出てしまう。
- **米を作っている人は今でもいるのか。**→少なくなったがいる。天野さんもその一人。
- **区画整理をしてよかった点、悪かった点は何か（A児の質問）**
  →今、考えてみても悪かった点は特にない。結果、よかったことの方が多いと思っている。あえて言うならば、環境が悪くなった。（緑が少なくなった。）

A児は、前記の「区画整理をしてよかった点、悪かった点は何か」と質問した。

第７時を終えて、B児は「区画整理で田畑は埋め立てられたけど、町が便利な土地になった。つまり、自然をはかいしたけど、それは町にとっていいことだった」と記述した。B児は、天野さんの話（区画整理事業を行ったこと）について肯定的に受け取り、学区の開発のために自然は減っても仕方がないと考えていることが分かる。A児は、天野さんの「悪かった点は特にない」という回答に対して納得いかないような表情を浮かべた。A児は，緑地がなくなってしまったことを悪かった点と思っているからだと考えられる。授業後も「昔あった緑地は全て（ほとんど）つぶれてしまった。今は羽根小の裏や前に緑地がある。便利な地域にしたかったため、田畑は少なくなってしまった。田や畑があったほうがいいと思うけど、ただ田や畑だけでも困る。しかし、便利に便利にというだけでもだめなので、バランスが大切だなあと思いました」と記述し、発表をした。

（５）区画整理組合の人たちが「後の世に伝えたかったこと」は何だろうか（第８・９時）

前時までの学習で、子どもたちは、学区（羽根地区）で何が行われたのか、区画整理とは何だったのかを理解することができた。そこで、第８・９時では、区画整理に携わった人々の思いや努力、苦労について考えさせた。

第８時ではまず、区画整理が行われたきっかけと実際に行ったことを整理した後、区画整理を行うと、組合員（区画整理する地域内の人）は少しずつ土地を負担する（土地が減る・持っている土地の広さに応じて）ということと、それによって自分の土地の場所が変わる人も出てくるということを教えた。

続いて、前時の天野さんの話を聞く中で、少し出た話であるが、「なぜ組合を作るまでに５年間かかったか」について詳しく話していただいたインタビューの映像（ビデオ）を流した。天野さんの話の要点は次のようである。

- 反対派の人はどこに自分の土地が来るのか、そこで田んぼが本当にできるかどうかが不安で反対した。
- 組合の役員（天野さん達）は、どこの土地になっても６m以上の道路がつき、他の人の田を通らなくても自分の土地に行けるようになること、農業の機械化ができるようになること、どの土地にも水路が通るので水の確保ができることなど、今まで以上に楽になることを説いた。
- 反対者のもとへ大勢で押しかけても強情になるだけなので、役員（天野さんなど）が数人（２人）程度で足繁く通って説得した。
- 説得には、市の役人も連れていって地図を見せるなどして、きめ細かく説明をした。
- それでも話し合いは夜中まで続くこともよくあった。

ビデオを視聴した後、まず反対派の人々が反対をした理由（土地の場所が変わることと、土地が減ること）を確認した。その上で、自分が土地を持っていたら賛成するか、反対するか、自分の立場を聞いてみた。すると、ほとんどの子が反対派であった。そこで、なぜ反対なのかを書かせ、発表させた。下の【資料４】は、主な反対派の意見である。「土地が減ると米の取れる量が減る」のような実益的なものから、「なれないところに行くのはいやだ」のような精神的なものまで挙がった。A児も反対派で「自分の住んできた歴史のある土地だから」と発言した。

そのような中で、B児は「ぼくは、自分の土地が減ったりするのはいやなんだけど、ぼくだったらたぶん賛成すると思う」と発言した。それはなぜかと尋ねると、「うーん、分からないけど、将来のためによくしようって言っているのに、反対したらできなくなる」と答えた。B児は、自分の利害だけで考えるのではなく、地域全体の利益という視点から考えようとしていることが分かる。

そこでB児がもたらした視点から、今度は、組合員の人は何と言って説得したか、あるいは、何と言われたら賛成しようと思うか（組合員の思い）を考えさせた。右上の【資料５】は、子どもたちから挙げられた意見である。子どもたちが挙げた意見から、「未来」「将来」が区画整理を行った人々、また初めは反対していても賛成派に回った人たちの、キーワードであることが分かる。A児は最初、反対派で意見を述べたが、組合員の人の思いも考えることができた。A児は本時の感想で「私は区画整理をやるのを反対する人の気持ちがよく分かりました。自分がせっかく長いこと田畑をやっていて、その歴史が消えてしまったり、なくなってしまったりすることはいやだという気持ち。道路なんてつくらなくても別に困ってないし、いらないという気持ち。いろいろあります。天野さんたちは、よく説得できたなあと思います。きっと、自分たちの考え、思いを説明したり、いっしょうけんめい伝えたんでしょう。５

【資料４】　反対派の意見

〔実益的なもの〕
- 土地が減ると米の取れる量が減る。
- 今のままでも不満はないのに、区画整理する意味が分からない。
- せっかくの自分の土地なのに（減ったり、動いたりするのはいやだ）。
- 今の田んぼがよく米が取れるのに。

〔精神的なもの〕
- なれないところに行くのはいやだ。
- 自分の住んできた歴史がある土地だから。（A児の発言）
- 自分の土地を離れたくない、近所の人と話せなくなる。

【資料５】　組合員（賛成派）の思い

- ちゃんと（土地の移動する）場所を教える。いいところを教える。
- いいもの（道路）ができる。
- 今の土地よりいい土地になる。
- 将来の子どもたちのために、公園ができる。
- 次の世代の人も田畑を続けていける。(A児の発言)
- 将来のため、未来の人が苦しい思いをしてはいけない。
- 新しい土地で、新しい思い出を作ってください。

年間何としても区画整理をしたいという思いが届いたと思った。そこまで言われたら、ことわることができなく、天野さんたちもいろいろ工夫もしてやっとなっとくしてもらえた」と記述した。B児は「組合の人は反対の人になっとくしてもらうために、工夫をしてなっとくしてもらった」と記述している。子どもたちは、反対側、賛成側両方の立場を考えることができた。

第９時では、碑文に書かれている「この事業を後の世に伝えるために」の部分に戻り、「区画整理組合の人々が後の世に伝えたかったこと」を考えさせ、発表させた。碑文に戻ったのは、区画整理組合の人々の努力や苦労を過去の一事業として終わらせるのではなく、現在、未来とつながるものとしてとらえさせるためである。A児は、「これだけいっしょうけんめいになってなっとくしてもらえたことに感謝してもらいたい。そして、区画整理をしたことによって、今便利に生活できるということを伝えたかった。国道２４８号にはいろいろな人の思いがこめられていて、田や畑をぎせいにしてまでつくった道路のありがたさを知ってほしい」と考えた。B児は、「組合員の人々たちの関係（一人一人の気持ち）を一つにして、町を便利にさせて、町の人々の生活を楽にさせたということ」と考えた。このように、子どもたちは、この事業が、誰かが勝手に行ったわけではなく、地域の人々の思いや苦労・努力があり、それを伝えていこうとしているということを実感できたと考えられる。

（６）未来の羽根学区をどうしていったらいいだろう（第１０・１１時）

第１０時では、第５時に子どもたちから挙げられた情報をもとに、羽根地区以外の学区の区画整理について取り上げた。まず、第５時に調べた庄司田地区が、昔は山や川だったという情報から、庄司田地区や柱地区でも昔、区画整理が行われたことを、写真資料を交えて伝えた。子どもたちは、羽根地区と同じく、昔の学区の姿が今と違うことに驚いた。また、各地域の人が自分たちの暮らす地域のことを考えて、行動していることを知った。

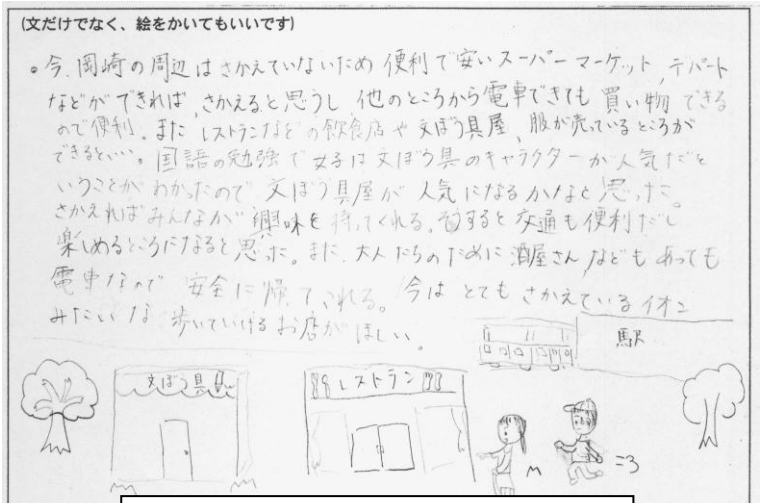
また、岡崎駅前について、「いろいろな施設がたくさんあり栄えていた」→「道路がごちゃごちゃしていた」→「ひっそりしていた」→「駅の整備が行われた」「区画整理が行われた」などの情報をもとに、これらの事情について、学区のことにくわしい奥田さんのインタビュー映像を流した。インタビューの内容は以下の通りである。

- 昔、駅前は大変にぎやかであった。
- しかし、車社会になると、駅前は道路がせまく、不便になった。
- また、２４８号など大きな道路ができてから（羽根地区の区画整理が行われてから）、車（人）の流れがそちらにいくようになり、駅付近は人が集まらなくなってしまった。
- そこで、駅の東地区も区画整理が行われるようになった。

映像の視聴後、岡崎駅や東地区の区画整理事業の写真資料を見せた。子どもたちは今なじみのある風景が、少し昔は違っていたことにとても驚いていた。子どもたちは、昔行われた羽根の区画整理事業のようなことが、今もなお駅の東地区で行われていることを知り、歴史（時間）のつながりを感じることができたと思われる。

第１１時では、これまでの学習を踏まえて、「未来の羽根学区をこうしたい」という発表を行った。事前にワークシートを配付し、「今がこうなので、もっとよくするために、こうしたい」というような書かせ方をした。

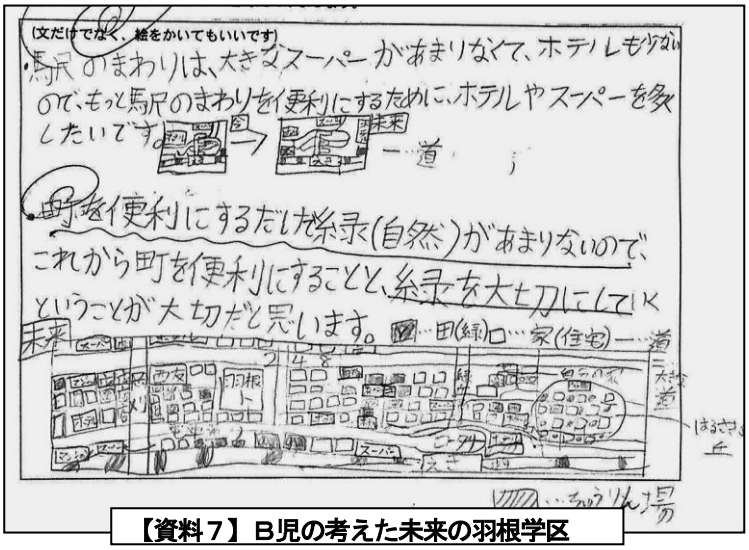
子どもの中には、便利な学区であるが、交通事故が多いという意識が強く、学習の中で出てきた「道」というものに目を向けた意見が多く出された。中には、自転車と接触事故にあったことがあるから、自転車専用の道路がほしいという子もいた。A児は、右の【資料６】のように、「今の岡崎（駅）の周辺はさかえていないため、便利で安いスーパーマーケット、デパートなどができればさかえると思うし、他のところから電車で来ても買い物ができるから便利。…中略…さかえればみんなが興味を持ってくれる。そうすると交通も便利になり楽しめるところになる」と記述した。A児は、自分が住んでいる場所であり、現在も開発途中の駅周辺の現状に目を向けて、大きな店や楽しめる場所をつくり、昔のような人がたくさん集まる場所にしたいと考えたと思われる。B児は、【資料７】に見られるように、A児と似た「駅の周りは、大きなスーパーがなくてホテルも少ないので、もっと駅の周りを便利にするために、ホテルやスーパーを多くしたいです」という意見とともに、「町を便利にするだけで、緑（自然）があまりないので、これから町を便利にすることと、緑を大切にしていくということが大切だと思います」と記述し、環境という面も考えることができた。B児は、



【資料６】A児の考えた未来の羽根学区

第７時の後、学区の開発のために自然は減っても仕方がないと考えていた。しかし、第７時後にA児の「便利だけではだめ」という発言を聞いたこと、第１０時に羽根地区以外の学区も昔は山、田畑であったことを知ったことなどによって、未来には自然を取り戻していきたいと考えたのだと思われる。

全員が発表した後、意見交流をしたが、A児は、B児の「緑を多くしたい」という意見に目を向けた。これまでの区画整理事業で、田畑がなくなってしまったことをよくないと思っていたA児だけに、「便利にすることと、緑を大切にしていくこと」の両方に目を向けたA児の意見に共感したと言える。B児の発表した緑を多くしたいという意見は、複数の子の賛同を得ることができた。B児は「自転車専用道路」に共感している。



【資料７】B児の考えた未来の羽根学区

４　研究のまとめ

（１）仮説１の検証

第６時では、区画整理前から区画整理後へと年代順に追った地図、区画整理が行われた地域全体を撮影した写真資料など、精選した資料を提示することで、子どもたちは、もとは田ばかりの地域で、区画整理というものが行われた地域を予測できた。また、それぞれの時期の写真を比較することで、区画整理以前と以後の様子や変化の様子を具体的に知ることができたことから、手だて①は有効であったと言える。

第５時には、家族・地域の人々への昔の学区の様子の聞き取りをさせ、一人調べをする時間を十分に保障することで、子どもたちは自信を持って発言し、根拠のある話し合いをすることができた。昔から今への学区の様子の移り変わりを考えていくことができた。また、第７時で天野さんの話の後に、実際に区画整理された地域を見学する時間を設けたが、子どもたちは道路の幅が６ｍあること、通学路に歩道がついていることを改めて実感することができた。第１１時の未来の羽根学区を考える授業でも、道に目を向けた意見が多く挙げられた。手だて②は有効であったと言える。

第８時では、区画整理事業について理解を深めた上で、区画整理事業を推進した人、反対した人の立場について考え、話し合う場を設けた。B児は自分の利害だけではなく、地域全体の利益から考えるという視点を全体に与え、A児は反対派、賛成派両方の立場から考えることができた。また、子どもたちは話し合いを通じて、学区をよりよくしようとしてきた人々の思いや努力に気付くことができた。手だて③は有効であったと言える。

（２）仮説２の検証

第７時では、岡崎羽根土地区画整理事業の中心となった方、第１０時では（映像ではあるが）、学区の歴史に詳しい方などと接し、子どもたちは、地域をよりよくしようとしてきた人々の努力や思いを直接的に感じられるようにすることができた。しかしA児は、昔の区画整理の価値観が、便利さの追求に偏り過ぎていることに疑問を抱いた。地域の人ともっと話し合う時間を保障したり、昔の区画整理についてどう思うかを話し合ったりする場を設けたりすることで、他者の考え方を理解することができ、地域に対する愛情も深めることができただろう。

第１１時では、過去に地域をよりよくしようとしてきた人々、現在も地域をよりよくしようとしている人々の思いや努力を踏まえ、未来について考える場を設定することで、A児、B児の記述にも見られるように、子どもたちは根拠のある、願いを持った未来の姿を考えることができた。しかし、地域の一員としての意識をさらに高めるためには、自分にできる具体的な行動を伴うことが必要であろう。

５　おわりに

「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題解決を図る社会科の授業」を主題とし、「仲間とのかかわり」に重点を置いて研究を進めてきた。本研究では、子どもたちが地域の自分の家族や地域の人々から話を聞いたり、友達と話し合ったり、多くの仲間とかかわることで変容し、問題解決に向けて粘り強く学習を進めることができたと言える。しかし、子どもたちがより積極的に社会参画していこうとする態度を育成するためには、子どもの意欲を高めていくような単元構想や、その中での仲間とのかかわらせ方に、更なる工夫が必要であると考える。